

天使病院小児科・NICU の抄読会で読まれた文献の 集計と分類

工藤 女恵
天使病院 中央図書室

■ 背景と目的

天使病院の小児科・NICU では 10～12 名の医師・研修医が参加し、合同で抄読会が定期開催されている。その歴史は長く、1984 年には既に実施されていたことが分かっている。2019 年度から中央図書室では抄読会で紙配布されるレジュメを保管し、閲覧に供している。本調査は、天使病院で小児医療に携わる臨床医が抄読会で採用した文献の可視化を目的とした。公表にあたり、抄読会関係者から許可を得た。

■ 対象と方法

抄読会のレジュメ（2019～2025 年度分）に記載された 155 文献。レジュメ作成者の属性別件数は、研修医 61 件、研修医以外の医師 71 件、そのいずれか不明なもの 23 件。紙媒体で保管しているレジュメから書誌情報を抽出・データ化し、8 項目で集計・分類した。

①購読誌/非購読誌 ②OA/非 OA ③非 OA かつ非購読誌の場合のフルテキスト入手方法
④OJ/冊子体 ⑤掲載誌 ⑥文献の新しさ（出版年） ⑦研究デザイン ⑧主題

■ 結果

購読誌からの採用 83 件（53.5%）中、OA 文献 43 件、非 OA 文献 40 件だった。非購読誌からの採用 72 件（46.5%）中、OA 文献 58 件、非 OA 文献 14 件だった。全体では OA 文献 101 件（65.2%）、非 OA 文献 54 件（34.8%）だった。非購読誌かつ非 OA 文献である 14 件中、ILL での入手は 10 件、入手経路不明は 4 件だった。媒体は OJ が 134 件（86.5%）で、OJ で閲覧不能の場合は冊子体の利用が 21 件（13.5%）あった。小児科系雑誌からの採用は 49 件（31.6%）、非小児科系雑誌からは 106 件（68.4%）だった。出版年は、Article in Press が 4 件（2.6%）、当年 71 件（45.8%）、1 年前 51 件（32.9%）と続き、採用文献の 80%以上が 1 年前までに出版されていた。研究デザイン別では、実験的/介入研究が 61 件（39.4%）、観察研究が 58 件（37.4%）と、両者はほぼ均等に読まれていた。治療に関する文献が 68 件（43.9%）と最多だった。全体でもレジュメ作成者の属性別でも、抄読会で頻回に扱われていた主題は無く、最多だった主題「川崎病」でも 7 回に留まった。

■ 考察

141 件は購読誌か OA 文献（またはその両方）で「すぐ全文が読めるもの」が採用されやすいと思われた。ILL によらない自力入手と思われる 4 件があり、利用者支援における反省点となった。購読誌・OA 文献・ILL を利用し、小児科系雑誌以外からも多様な主題の新鮮な文献が読まれていると分かり、抄読会はその役割を果たしていると考えられた。